

主題：キリストを経験し、享受し、表現する

メッセージ 61

啓示録において (10)

勝利を得る初穂が従って行く小羊

聖書：啓 14:1-5. 創 5:22-24. ヘブル 11:5-6. マタイ 24:45-51. 25:14-30

I. 啓示録第14章1節から5節は、勝利を得る初穂が従って行く小羊としてのキリストを啓示しています：

- A. 初穂は生きている勝利者であり、神の畑において最初に円熟する者たちとなります。このゆえに、彼らは収穫物の前に神と小羊への初穂として刈り取られます：
1. 初穂は天のシオンの山に、すなわち、第三の天における神の住まいに携え上げられて、神とキリストの臨在の中に入ります。
 2. 携え上げの意味は、主の臨在の中へと取り入れられることです。主の臨在の中へと取り入れられるために、今日わたしたちは彼の臨在の中にいなければなりません——ルカ 21:36. II コリント 2:10. ホセア 6:2. II 4:8. 使徒 26:16 テモテ。
 3. 携え上げは敵を打ち破り、神を満足させるためです。主はご自身の敵に対して戦うために男の子を必要としますが、ご自身の満足と享受のためになおさら初穂を必要とします——啓 12:5. 14:1, 4 後半。
- B. 聖書は携え上げの二つの面を啓示しています。それは、大患難の前の勝利者の携え上げと、大患難の終わりの信者たちの大多数の携え上げです——マタイ 24:40-41. ルカ 21:36. 啓 3:10. I テサロニケ 4:15-17. 啓 12:5. 14:1。
- C. レビ記第 23 章 10 節において、わたしたちは携え上げの予表、すなわち、畑において熟している作物の予表を見ます——マタイ 13:24. 啓 14:14-16：
1. 神の作物を刈り取ることは、わたしたちが携え上げと呼んでいるものです。この刈り取ることは、信者たちが地から取り去られることを示しています——マタイ 13:30, 39 後半。
 2. 作物の一部分である初穂は、早く熟し、早く刈り取られます。作物の残りである収穫物は後で熟し、後で刈り取られます。
 3. 啓示録第 14 章によれば、二種類の携え上げがあります。それは初穂の携え上げと、収穫物の携え上げです——4 後半, 14-16 節。
- D. 初穂はシオンにおける神の家に携え上げられ、神に対する新鮮な享受となります。これは神の満足のためです——出 23:19 前半. レビ 23:10. 参照、ヨハネ 20:17 前半。
- E. 初穂には小羊の名と彼の父の名がその額に記されています。これは彼らが小羊と、また御父と一であることを示すものであり、また彼らが小羊と御父に属することを示すものです——啓 14:1 後半。
- F. 初穂は神の作物の間で最も早く円熟に達します——ヘブル 5:14-6:1. I コリント 2:6. エペソ 4:13. ピリピ 3:15：
1. 造り変えられるとは、わたしたちの天然の命において変えられることです。円熟

するとは、わたしたちを変える神聖な命で満たされることです——ローマ 12:2.
エペソ 3:19 後半。

2. 神の表現のために円熟の必要があります。円熟した命だけが神のかたちを帯び、
神の統治権を行使することができます——創 1:26. ローマ 5:10, 17, 21。

II. わたしたちは小羊に従って行き、前進して円熟し初穂となるために、信仰によって神
と共に歩んで死から逃れ、神に喜ばれる証しを得なければなりません：

A. 死から逃れ、神に喜ばれる証しを得る道は、神と共に歩むことです——創 5:22-24.
ヘブル 11:5-6：

1. 神と共に歩むとは、神に優先しないこと、出しゃばらないこと、自分の観念や願
望によって事を行なわないこと、時代の潮流にしたがって事を行なわないこと、
神なしに何も行なわないことです——参照、詩 19:12-13. ヨシユア 9:14 後半. ル
カ 24:15。

2. 神と共に歩むとは、神をわたしたちの中心またすべてとすること、彼の啓示と導
きにしたがって生きて事を行なうこと、彼と共にすべてを行なうことです——ロ
ーマ 8:4, 13-14. ガラテヤ 2:2 前半. II コリント 5:14-15。

3. 神と共に歩むとは、わたしたちが自分であることや自分ができることによってで
はなく、死なない命によって、すなわち、キリストご自身によって生きることを
意味します——4, 9 節。

4. 神と共に歩むとは、神と習慣的な交わりを持つこと、主との絶え間ない接触の中
に居ること、彼の絶え間ない注入の下に居ることです——I ヨハネ 1:3. ピリピ 4:6.
II コリント 3:16, 18。

5. 神と共に歩むとは、絶えずわたしたちの霊を活用して祝福された三一を享受する
ことです——ユダ 14, 19-21。

6. 神と共に歩むとは、わたしたちの自己やわたしたちの自己に属するすべてを否み、
わたしたちが神と一となることを暗示します。それは、わたしたちが自分自身を
神にささげていること、わたしたちが彼に譲り、彼に率先していただくことを暗
示します——マタイ 16:24-25. II コリント 2:13-14。

B. 神と共に歩くことは、信仰によって歩くことです——5:7. ヘブル 11:5-6：

1. 信仰とは、わたしたちが「神はある」ことを信じることです——1-2, 6 節. II コ
リント 4:13, 18：

a. 信仰がなくては、神に喜ばれること、すなわち神を幸いにすることはできませ
ん——ヘブル 11:6 前半。

b. 「神はある」ことを信じることは、彼がわたしたちにとってすべてであり、わた
したちは無であることを信じることです——ヨハネ 8:58. 伝 1:2。

c. 「神はある」ことを信じることは、「わたしたちはない」ことを暗示します。彼
はあらゆることにおいてただひとりの方、唯一の方でなければならず、わたし
たちはあらゆることにおいて無でなければなりません——創 5:24. ヘブル 11:5。

d. 「神はある」ことを信じることは、わたしたちの自己を否むことです。全宇宙に
おいて、神はあり、わたしたちはみな無です——ルカ 9:23。

e. わたしは何かであるべきではありません。わたしは存在すべきではありません。

彼だけが存在すべきです——「もはやわたしではなく、キリスト」——ガラテヤ 2:20。

f. タルソのサウロが回心した時に、主は彼に言いました、「わたしは……イエスである」——使徒 9:5 :

(1) 主はこう言っていました、「わたしは大いなるわたしはあるである。わたしは存在する者である。あなたはわたしがあること、またあなたはないことを信じなければならない」。

(2) 最終的に、サウロは終わり、パウロが現れました—— 13:9。

g. これが信仰です——「ああ、何という喜び。何も持たず、無であり、栄光の中の生けるキリスト以外何も見ず、地上で彼の權益のほか何も顧慮しないことの喜び」—— J. N. ダービー。

2. 信仰とは、神は彼を熱心に尋ね求める者たちに報いてくださる方であることを、わたしたちが信じることを意味します——ヘブル 11:6. 創 15:1. ピリピ 3:8, 14 :

a. エノクの受けた報いは、最高度の命、すなわち、死を逃れることでした——ヘブル 11:5 前半. II コリント 5:4. ローマ 8:6, 10-11. 5:17。

b. 主は報いてくださる方であり、わたしたちは主を尋ね求める者である必要があります——詩 27:4, 8. 42:1-2. 43:4. 73:25. 119:2, 10。

C. エノクは携え上げられた最初の人として、生きている間に携え上げられるすべての勝利者たちの代表です——マタイ 24:37-51. 啓 14:1. ルカ 21:34-36 :

1. わたしたちが携え上げられることは、神と共に歩くことによって、神聖な命において円熟することにかかっています——ヘブル 6:1 前半。

2. エノクは三世紀にわたって、昼も夜も神と共に上に向かって絶えず歩き、日に日に神とさらに近くなり、さらに一になって、ついには、「神が彼を取られたので、彼はいなくなった」——創 5:24. 参照、雅 8:5 前半。

III. わたしたちは小羊に従って行き、前進して円熟し初穂となるために、主が委託した奉仕において忠信になって、神の家族の人に神を食物として供給しなければなりません。それは、わたしたちが来たるべき王国においてキリストをわたしたちの褒賞として勝ち取るためです——マタイ 24:45-51 :

A. 神は家庭と家庭の行政、すなわちエコノミーを持っています。それは、神の家族の人にご自身を食物として分与して、彼を表現するためです—— I テモテ 1:4, 3:15. エペソ 2:19。

B. 神はご自身の家族の上に忠信で思慮深い奴隷を任命しました。彼らは、家庭の管理者、執事、供給の経路であって、時に応じて神の民に食物を与えます——マタイ 24:45. I コリント 9:17. エペソ 3:2. I コリント 4:1. I ペテロ 4:10. ピリピ 1:25。

C. 「食物を与える」とは、召会の中で信者たちに神の言葉とキリストを命の供給として供給することを指しています。命を与える霊としてのキリストは、わたしたちの食物であり、命の言葉の中に具体化され、実際化されています——ヨハネ 6:57, 63, 68. 使徒 5:20 :

1. 主をわたしたちの霊的食物として享受して、他の人たちを養うことができるようになるために、わたしたちは彼の言葉を祈り、思い巡らし、注意深く考慮することを通して、それを味わい享受しなければなりません——エペソ 6:17-18. 詩 119:15.

エゼキエル 3:1-4。

2. わたしたちは自分自身を、祈りと言葉の務めにささげなければなりません——使徒 6:4. II コリント 3:6, 8. ヨハネ 7:37-39. 参照、ヘブル 7:25. 8:2。
- D. わたしたちが心の中で、「わたしの主人は来るのが遅れる」と言うことは、今の邪悪な世を愛し、主の出現を慕わないことです——マタイ 24:48. II テモテ 4:8, 10. 参照、使徒 26:16 :
1. わたしたちはむさぼりに注意し、自分のための宝を蓄えることをせず、神に対して富んでいなければなりません——ルカ 12:15-20. II コリント 6:10. エペソ 3:8。
 2. 「ロトの妻を思い出さない」は、この世を愛する信者たちに対する厳粛な警告です——ルカ 17:31-32. 参照、ローマ 1:21, 25。
 3. 主の来臨の日が罨のように、突然わたしたちに襲いかかることがないように、わたしたちは目を覚まして祈り求めているなければなりません——ルカ 21:34-36. 参照、マタイ 2:3。
- E. わたしたちの奴隷仲間を打ちたたくことは、わたしたちの信者仲間を虐待することです—— 24:49 前半. 18:3-7. 使徒 9:4 :
1. わたしたちは、わたしたちの信者仲間を裁いたり罪定めしたりせず、彼らに対して親切であり、情け深くあり、神がキリストにあってわたしたちを赦してくださったように、彼らを赦さなければなりません——ルカ 6:37. エペソ 4:31-32。
 2. わたしたちは、わたしたちの兄弟たちをののしったり批判したりせず、彼らを自分自身よりすぐれていると思わなければなりません—— I コリント 6:10. ピリピ 2:2-3, 29。
 3. わたしたちは、わたしたちの信者仲間たちの上に権威を振るうのではなく、奴隷として彼らに命を与える霊としての復活したキリストをもって彼らを養わなければなりません—— I ペテロ 5:3. マタイ 20:25-28. 参照、民 17:8。
- F. 酔っ払いどもと食べたり飲んだりすることは、世的な事柄に酔いしれている世的な人々との交遊を保つことです——マタイ 24:49 後半. 参照、エペソ 5:18 :
1. 信者は、彼らの神聖な性質と聖なる立場のゆえに、未信者とくびきを共にすべきではありません。これは、結婚や仕事にだけでなく、信者と未信者の間のすべての親密な関係に適用されるべきです—— II コリント 6:14. I コリント 15:33. 参照、箴 13:20。
 2. わたしたちは、若い時の欲から逃れて、純粋な心で主を呼び求める人たちと共に、すべてを含むキリストを追い求めなければなりません—— II テモテ 2:22。